

令和2年度光海中学校「特色ある学校づくり対策事業」実践報告



学校名：佐世保市立光海中学校

所在地：〒857-0062

佐世保市金比良町1-15

校長名：前田和子

生徒数：58名

学級数：5学級

1 本校の特色ある学校づくりの目的～国際社会にはばたく光海っ子を育てる～

平成29年度から小中一貫型金比良小学校・光海中学校として始動し、その教育効果を高めるために小学6年生の教室を本校にも設置した。小学校への乗り入れ授業も多く展開し、交流を深めた。また、校区には、米軍基地、キングスクールが隣接する佐世保の国際色を感じる学校である。生徒は、小集団ながら学習や部活動に熱心に取り組み、文化面、運動面において諸大会で好成績を収めている。地域は、金刀比羅神社を中心に歴史が深く、伝統のある地域行事が盛んである。特に、地域の方々は、子どもを地域の力で育てようという意識が高く、子どもを中心に据えた行事に熱心に取り組んでおられる。この地域の特長を生かし、地域そして佐世保の自然や文化に触れさせ、研究テーマ「ことばの力を育てる」事業推進のため、郷土を愛する心を育て、思考力、表現力、コミュニケーション能力を身につけさせるために、次の目標を設定して、本校の特色ある学校づくりに取り組んだ。

2 実践内容

校内研修のテーマとして「ことばの力を育てる」～考え、伝える場の工夫を通して～と決めた。特に研究の視点として3つの「考えを持つ・考えを開きあう・考えを再構築する」場の工夫を設定した。さらに、目指す生徒の姿を自分の考えを持つことや、新たな見方・考え方を伝え合う、そして再度向き合ったりして新たな価値を作り出すこととし、ことばの力を育てることを目的とする。

(1) 学力向上プラン

① 「話す力」の育成

世代の違う家族や地域の人との交流を通じて自分の思いを語り人とのつながる力を育む態度を養うため、「夢を語ろうイン kokai」を実施した。地域の方の感想に「子どもたちの夢、個性が見られてよかった。来年もずっと続けて欲しい」という嬉しい感想があった。

(少人数の地域、保護者、生徒の参加で実施しました)

佐世保市議会の傍聴、社会科の教科との連携して学習した

② イングリッシュキャンプ

異国情緒溢れるテーマパークハウステンボス内で、「ジャイロスコープ」でワクワクしながら楽しい英語キャンプを実施した。トピックに沿ってグループごとに外国人コーチと会話をしたり、英語や与えられた英語を体験し、英語力の向上を図りながらコミュニケーション力をつけた。

③ 国際理解教育講演会

県立大学の山崎 祐一 教授の異文化理解に関する講演会を開催した。本年度は、他国の英語教育についての話をいただいた。大学のすばらしい施設での授業体験は、今後の進路を考える動機付けにもなっており、キャリア教育充実の一助にもなっている。

④ Gテック受験

Gテック受験を目的として、英語の話す力、書く力の検証の実施



夢を語ろうイン kokai



イングリッシュキャンプ



県立大学での授業

した。(今年度は、3年生のみ実施)

⑤ 校内掲示板～教科ごとの学習成果を見せ合う～

思考、判断、表現の深まりを確認する。(英語・社会・国語)



英語科



社会科

(2) 光海中魂向上プラン

- 「ふるさと学習」～ふるさと歴史発見 校区内の歴史を学ぶ～
弓張岳砲台跡、展望台大43号潜水艦殉難の碑、親鸞上人史跡を巡った。生徒は、郷土に残る戦跡に触れ、戦争の悲惨さを感じ取り、戦争を二度と起こしてはならない決意を新たにした。
また、見聞したことを模造紙にまとめ、市に提出し、展示発表を行った。



親鸞上人の碑を見学する生徒

○ 平和学習(全学年)～「夏の少年」朗読会

6.29平和集会では、お話マルシェの新井悦子氏を招き、佐世保空襲を題材とした「夏の少年」の紙芝居形式の朗読を実施していただいた。その後、戦争のもつ非人間性、悲惨さについて理解し、命と平和の尊さについて認識させた。



朗読をする新井悦子さん

○ 「生き方」～職場見学～

・校区内や地域に隣接する森きらら、海きららそして消防署など実際に仕事を体験する姿を見学する職場見学学習を行った。そんな中、働くことに対する思いやりがい、中学生へのメッセージ等をいただいた。

～体験学習(金比良小)～

・母校に成長した姿を見せ、「教える」ことの難しさを感じていた。校区内の小学校で授業を行う体験学習を実施した。見学学習や体験学習の内容は、生徒が学級で発表し、表現力を高めた。

<職場見学・体験学習のようす>



海きらら



市消防署



小学校体験学習

○「からだ」(全学年)～ヨガ教室～

本年度は、日頃の授業で学ぶ内容の有用性を生徒に感じ取らせるために、様々な体験活動や多様な人との出会いの場を設定した。

ヨガ講習会は、前年実施した内容をレベルアップして3年連続で行った。講師は、森岡やよい先生をお招きして60分実施した。

ヨガは、姿勢をよくする、呼吸を整えて精神を安定させる、集中力を高める等たくさんの効果がある。



ヨガ講習会

○ i チェック～2回目の実施

本校は、5月と1月に2回実施した。学級や生徒の変容を見ることで、学級経営や生徒指導に役立っている。

(2) 小中連携・地域連携向上プラン

○金比良小学校との小中連携

3年前から金比良小学校の6年生が本校舎に学びの場を移して、中学校数学科教員を小学校6年生のチームティーチングとして活用した。その他、中学校英語科教員と5、6年生担任とのチームティーチングや中学校音楽科教員による乗り入れ授業を行った。また、行事においても小中連携強化を図り、人権集会や通常の昼休みにはグラウンドでの異学年交流活動も取り入れるなど特色ある取組を実践できた。



中学校英語教員による
による小学6年生の授業



小中学校の児童生徒による
交流(レクリエーション)



地震・津波被害を想定した
小学校中学校合同避難訓練

運動は、「一日一笑あいさつ∞(無限大)」のスローガンのもと、生徒会役員が中心となり、一校一徳運動として取り組んでいる。小中一貫型学校の特色を生かし、小学6年生も生徒会専門委員会の委員として活動を行うようにし、毎朝元気なよい挨拶の声が響く学校づくりになっている。今年は、小学校の校門前でも中学生による挨拶運動を実施した。

花いっぱい運動は本校の伝統的な特色ある学校づくりの取組となっている。生徒一人一人がプランターに花を植え、責任をもって苗の世話をし、美しい花を咲かせる活動に取り組んでいる。

また、校内に多くの花が咲き、潤いのある校内環境をつくりあげることができている。特に、後期の取組では、3年生の卒業を祝うために、色鮮やかな花が咲いたプランターを卒業式の会場に飾っている。



あいさつ運動(中学校校門付近)



一人一つプランター花づくり



あいさつ運動(小学校校門付近)

○ 地域との連携～思いを語り、人とつながる力を育む「夢を語ろう in kokai」



夢を語ろう in kokai

12月18日午後から、世代の違う家族や地域の人との交流を通じて自分の思いを語り、人とのつながる力を育む力を養うため、「夢を語ろう in kokai」を実施した。自己紹介から始まり、話題を起こすためにフリップを使用しながら話をした。その後、話題をつなげ、広げるために、工夫して取り組んだ。

3 成果

○ 学校評価（令和2年度）

- ・学校の指導方針は共感でき、特色ある教育活動に満足している。
- ・外部の人材、地域の教材などを活用した教育活動が行われる。
- ・学校の教育内容や生徒の様子が十分伝わっている。

全体	3.6 (R2) ← 3.5 (R1) (+0.1)
保護者	3.6 (R2) ← 3.3 (R1) (+0.3)

職員	3.3 (R2) ← 3.2 (R1) (+0.1)
全体	3.5 (R2) ← 3.4 (R1) (+0.1)

職員	3.8 (R2) ← 2.8 (R1) (+1.0)
全体	3.8 (R2) ← 3.1 (R1) (+0.7)

○ 地域の声から

- ・子どもたちが、互いに認め合っていることが、手に取ってわかりました。私も私の子どもたちも光海中出身です。「光海魂」を忘れずにお互い頑張りましょう。

○ 課題

- ・生徒・・・「学習、学校行事、学校生活、部活動への意欲の向上」
- ・家庭・・・「家庭でのメディア利用のルール、自立に向けた生活習慣の確立」
- ・学校・・・「学力向上に向けて一話す力の育成～自分を語る～授業の実践、生徒の主体的対話的な深い学びの実践」
- ・保護者・・・「メディアのルールを中心とする生活習慣の見直し」
- ・地域・・・「地域、保護者、学校の連携による理解と協力」

4 今後の課題

学力向上及び地域連携・小中連携を目指した取り組みであった。学力向上に向けて校内研修の取組「ことばの力を育てる」と連動した。自分を語る活動の中で、思考・判断が伴って学びを深めることを教師には求めた。教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学習に向かう姿勢と学びの意欲が増している。特に、英語科授業や地域人材活用した「話す」取組の成果が見えてきた。具体をもって取り組む教師の意欲も見える。何よりも学びを楽しむ子どもたちの姿が見えた。

今年度は、本校が取り組む小中一貫教育の推進及び地域とともにある学校になるための特色ある取組に力を入れてきた。ポイントは、「本物にふれる」「ふるさと学習」「話す力」である。

そこでは、地域に人材・教材を求め、地域の方との距離を縮めた。さらに、小学校と中学校の距離感も縮めている。地域の方の温かい励ましの声が増え、地域の元気な声が聞こえてくる成果を感じ始めた。学校評価がこれらを表している。また、感想欄に書かれた地域や保護者の声を読んだときに、さらに特色ある学校づくりを目指し、学力向上の期待に応えなければならないと感じる。